

## 機構長挨拶

東北大学学位プログラム推進機構長として、2017年度のリーディングプログラム成果発表会の開催にあたり、一言挨拶を申し上げます。

本成果発表会は、安全安心プログラム及び物質プログラムの学生が、プログラムにおける学修の成果をそれぞれ発表し、またワークショップにより学生間の親睦を深めることで、互いに切磋琢磨し、より一層高い意欲を持ってプログラムに参加してもらうことを目的とし開催するもので、昨年度に続き、2回目の開催となります。

また、同じく昨年度から「リーディングプログラムにおける優秀学生表彰制度」を設け、リーディングプログラムの、俯瞰力及び独創力を身に付けさせ、広く産学官にわたりグローバルに活躍する指導的人材を育成する、という人材育成目的にかない、かつ学業成績が優秀な学生をリーディングプログラム部門として表彰しています。

今年度はグローバル安全学トップリーダー育成プログラムから藤田ふじた遼りょうさん、マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラムから柳(りゅう)淀春(じょんちゆん)さんが受賞されました。お二人からは、この後、各プログラムから選出された4名の発表者とともに、リーディングプログラムの活動を通して学修したことを発表してもらいますので、皆さんのこれからの活動の参考になることと思います。

午後のワークショップでは、今年度入学した2つのプログラム学生の混成グループによるディスカッションが行われます。今年度は、「グローバ

ル安全学トップリーダー育成プログラム」の第5期生となる14名の皆さん、「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」の第4期生となる10名の皆さんを迎え、本学全体として、安全安心プログラム87名、物質プログラム68名の、計155名のリーディングプログラム学生が学修に励んでおります。今日は、プログラムの枠を越え、両プログラム間で大いに議論していただき、お互い切磋琢磨していただければと思います。

さて、2012年（平成24年）秋から始まった「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」は、開始から4年目の一昨年に中間評価が行われ、「計画通りの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することができる」とのことで、A評価を頂くことができました。

また、2013年（平成25年）秋から始まった「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」では、4年目となる昨年に中間評価が行われ、「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」とのことで、S評価をいただきました。

本プログラムに事業担当者として参加している教職員の活動と、プログラムに参加している学生の皆さんの活動が、高く評価されたことで、大変喜ばしく思っております。

昨年度はグローバル安全学トップリーダー育成プログラムから初めての修了生9名が社会に飛び立ちました。そして今年度は、一昨日の26日にリ

リーディングプログラム学生修了式を行い、3名が新たな旅立ちを迎えました。

リーディングプログラム学生としての生活は、所属する研究科での学修に加えて、リーディングプログラムの学修や研修もこなす必要がありますので、ハードな毎日を過ごしていると思いますが、是非、今日の、プログラムを越えた新たな仲間とともに切磋琢磨し、能動的、主体的に学び合いながら、皆さん自身が思い描く将来のリーダーとしての“夢”を互いに共有し、実現していただきたいと思います。

二つのリーディングプログラムは、本学が目指す「東北の復興・日本再生の先導」を実現するとともに、国際的に活躍できる指導的人材を育成するための非常に重要な事業であります。大学としてもこのリーディングプログラムの目的を実現するために、皆さんを積極的に支援して参りたいと考えています。

最後に、このリーディングプログラムにより、博士の学位を取得された皆さんが、将来、グローバルリーダーとして世界各地で場所を選ばず、あらゆる局面で活躍し、日本ひいては世界が抱える課題を解決しかつ発展することに貢献できる人となることを願って、私の挨拶とさせていただきます。

2017年9月28日

東北大学学位プログラム推進機構長

教育・学生支援・教育国際交流担当理事

花輪公雄